

平成26年度第6回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（1日目）

日 時：平成27年3月20日（金）

午後6時～午後8時35分

場 所：市役所新館2階 大会議室

出席者：審査委員 鴻野委員（事業番号12から欠席）、齋藤（秀）委員、清藤委員、
齋藤（き）委員、西川委員、高森委員、木田（直）委員、
木田（多）委員、工藤委員、長内委員
※5名欠席（檜楨委員長、島委員、小友委員、宮川委員、小林委員）
市民協働政策課 大澤課長、三上補佐、白戸主幹、櫻庭係長、對馬主査、阿保主事
齋藤主事、成田主事

1 公開プレゼンテーション・審査会

<プレゼンテーション・審査方法>

- ・1事業ごとに公開プレゼンテーション・審査を実施。（審査は採点方式によって決定。）
ただし、申請金額が20万以下の事業については、公開プレゼンテーションへの参加を申請団体の任意とする。事業説明を希望しない場合は、申請書類と事務局の事業説明により審査を実施する。
- ・審査委員が申請団体に所属する場合は、プレゼンテーションから審査まですべて外れる。

（公開プレゼンテーション有）

1. プレゼンテーション …15分程度
（7分以内で事業内容の説明。残り時間で質疑応答。）
2. 審査 …20分程度
（事業内容・金額について審議後、採点表に記入。）
3. 採点結果発表 …採点表集計後、休憩ごとにまとめて発表。

（公開プレゼンテーション無）

申請団体によるプレゼンテーションを省略し、1事業につき15分程度とする。

【審査項目】

審 査 項 目	
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している

	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性（継続事業については発展性）が期待できる
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる

【審査採点】

区 分	評 価
高く評価できる	10点
「高く評価できる」と「普通」の間の評価	8点
普通	6点
「普通」と「あまり評価できない」の間の評価	4点
あまり評価できない	2点
評価できない	0点

【決定方法】

採択…出席委員の合計の平均点が60点以上、かつ、各審査項目の平均点が3点以上

《審査内容》

- 5：おかせり野菜ボックスでCO2と市民税支出を減らすプロジェクト事業／
特定非営利活動法人もったいないつがるの会

【質疑応答（抜粋）】

Q：ごみを有効に使い、生ごみを減らすための啓発活動が事業の主な目的なのか。

A：以前行った講座を受講した人の中には、近所や知り合い5人ほどの仲間で一緒に生ごみ堆肥づくりを継続して野菜を作っている人がいる。実際に段ボールコンポストを体験し、自信を持った人に働きかけてもらうことで、活動を少しずつでも広めていきたい。

Q：段ボールコンポストを用いて生ごみからたい肥を作った後、参加者につながりが生まれるなどの効果がみえるようなプログラムは計画しているか。

A：この事業を、各市町村でこれからも展開していき、作ったたい肥と、それを用いて育てた野菜の写真を集めた大会を開くなどの計画を考えている。

【主な意見】

- ・ゴミのリサイクル問題に関しては、経済的な面から継続できないことが多いので、経済的に持続して運営できるようなシステム作りをして、うまく軌道に乗せていただきたい。
- ・弘前市のゴミの排出量が全国的に見ても多いことを、市民に伝えていく、知ってもらうための「スタート」には良い事業だと思う。

【採択結果】

合計点 73.4点 \geq 60.0点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 10名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.2
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.0
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.6
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.2
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.4
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.4
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.0
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	5.8
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.0
合計		73.4

● 17：甦れ、雑種地から交流農園へ（2期事業）／向外瀬町会

【質疑応答（抜粋）】

Q：整備が完了した土地を市民農園として使いたいという希望者に無料で貸し出す予定か。

A：土地は無料で貸し出す予定である。昨年整備が終わり、今年から使うことができる畑が2面あるので、1面は児童センターと保育所に使ってもらい、もう1面は町会の方々に募集をして、使っていただく。今のような状態で残っているこの土地を、町会の財産としてこれからもみんなで楽しく使っていきたいという思いがある。

Q：地域の住民が一緒になって作業した中で、良かった点はあったか。

A：町会のみんなで何かをやるんだ、という気持ちが醸成できた。

Q：今後の農園の管理・運営について考えていることがあれば、教えていただきたい。

A：仮設トイレや水道など農園に必要な設備を整え、畑地・耕作の応援組織づくりに取り組んでいきたいと考えている。

【主な意見】

- ・市内には、空き地にゴミが積まれて放置されているような場所がたくさん見られるので、事業を行ってきた手法やプロセスを他の団体などに伝えて、そこから他の地域の放置問題が解決されていくことができれば、今後の発展性もうかがえる。

- ・整備を終えた土地を生かして新しい事業を展開していく際にも、1%システムを活用して、その事業を軌道に乗せていただきたい。
- ・地域の住民の労力や経費的な負担があり、大変な思いをしてきれいに整備したと思うので、地域で誇れる農園として保っていただきたい。

【採択結果】

合計点 86.6 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 10 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.2
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	9.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	9.2
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.0
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.4
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.6
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.4
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.8
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	9.0
合計		86.6

● 12 : 奈良岡朋子朗読会「黒い雨」／演劇鑑賞会 弘前市民劇場

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 朗読会の第一部で奈良岡朋子さんと文化人の対談について、具体的にどのように実施する予定か。

A : 文化人の方 1～2 名と司会者と奈良岡朋子さんでパネルディスカッションのような形式でお話を伺いたいと考えている。

Q : 一般の参加者 300 人を集める方法として、チラシの作成枚数が 1000 枚で十分か。

A : 500 名以上いる市民劇場の会員が、チラシを持ちながら周知し、一般の参加者を集めていきたいと思っているので、この枚数で間に合うと考えている。

Q : 今までの公演などでは、どのくらいの人を無料招待していたのか。

A : 弘前城築城 400 年祭のときにも奈良岡朋子さんを招いて 4 回の公演を行い、20 組から 30 組の親子を招待した。また、市民会館 50 周年の時は、約 20 人の中高生を招待した。今回は、1%システムを利用することにより、中高生がチラシやポスターを見て、

たくさん参加してもらえるようにしたい。

【主な意見】

- ・この事業は戦後70年の節目として意味のあるものだと思う。奈良岡朋子さんが来るのであれば、ぜひ観劇したいという人もいると思うので、高校の演劇部など、中高生への働きかけ次第で、招待客100人を集めることができると思う。
- ・戦争を直接体験していなくても身近に感じている世代は、ポスターなどを見て興味を持つと思うが、招待で子どもたちが100人集まるかが心配である。
- ・今年は戦後70年ということで戦争に関係するものを題材としているが、中高生に文化に触れてもらうという視点で、少しずつ弘前市民の文化レベルを上げていく長期計画だと考えると、人材育成とも捉えられるので、中高生にこのような機会を与えることは必要だと思う。

【採択結果】

合計点 66.4 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員9名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.7
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.9
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.0
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.4
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.7
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.1
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.7
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.4
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.4
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.1
合計		66.4

● 13： ～和徳の歴史の探求と伝統ある津軽の歴史の魅力発信事業～

題「けの汁発祥の地 和徳城」和徳城主 小山内讃岐の守没後 444 年祭」／和徳歴史探偵団

【質疑応答（抜粋）】

Q：同じ日に落城した和徳と石川など、津軽氏に滅ぼされた地域同士で地域の歴史を学ぶことができるようなイベントを実施することは考えられるか。

A：石川小学校のバザーに和徳のゆるキャラ「わっとくん」やたか丸くんを連れて行ったりして、少しずつ歴史に触れる機会を作ることができた。今後につなげるためにも、講話

をしてもらい、子どもたちに自分の地域の歴史を知ってもらいたい。また、新たな活動として、パネルを使って、各地に出かけて行って歴史について伝えていくことを考えている。

Q：けの汁コンテストの審査基準を教えてください。

A：まずは一般的なけの汁の材料が何種類入っているかで点数をつける。それに加えてアイデアや発想の面白さ、最終的にできたものを食べてみたいかということで点数をつける。また、おいしいものに箸を入れて投票するかたちで関係町会の町会長や婦人部の方などにも点数を付けてもらっている。

【主な意見】

- ・地域にもともとあるけの汁を生かしての活動や、石川地区と連携しての活動など、さまざまな切り口が毎年出てきているので、各地域を触発するような役割を担っていただきたい。
- ・農協の女性部が毎年和徳小学校にけの汁の作り方を教えに行ったりするなど、けの汁を残していこうという動きは、和徳地区の独特なものだと思う。
- ・和徳町会や、歴史を残していこうと活動している他の団体などと連携していき、活動が広まっていくことに期待したい。

【採択結果】

合計点 75.1 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 9 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.2
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.0
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.9
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.9
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.1
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.1
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.3
合計		75.1

3月20日審査結果（22事業のうち4事業）

採択とする事業	4事業
不採択とする事業	0事業

平成26年度第6回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（2日目）

日 時：平成27年3月21日（土）

午前9時～午後5時40分

場 所：市役所新館2階大会議室

出席者：審査委員 檜楨委員長、鴻野委員、齋藤（秀）委員、清藤委員、齋藤（き）委員
西川委員（事業番号3から欠席）、高森委員、木田（直）委員、
木田（多）委員、工藤委員（事業番号11から出席）、宮川委員、
長内委員、小林委員
※2名欠席（島委員、小友委員）
市民協働政策課 大澤課長、三上補佐、白戸主幹、櫻庭係長、對馬主査、阿保主事
斎藤主事、成田主事

1 公開プレゼンテーション・審査会

3月20日に引き続き審査

《審査内容》

●16：湯口交差点「花いっぱい運動」 / JA 相馬村女性部

【質疑応答（抜粋）】

Q：昨年は主にペチュニアを植えたようだが、今年はどのような花を植える予定か。

A：成長するにつれて大きくなる紫の菖蒲の花を後ろのほうに植えて、歩道に面している方にペチュニアを植えたいと考えている。

Q：植えた花を管理していく中で、水やりが一番大変ということだが、用土に手を加えるなど頻繁に水やりをしなくても良いような工夫は考えているか。

A：花を植える予定の土地は、歩道に面している。そこは少し傾斜がついていて、土を入れても歩道のほうに流れてしまうため、難しい。

Q：活動団体の事務局のメンバーが変わるということに対して、どのような対策を考えているのか。

A：今までと同様にプランターに花を植える場合、毎日水やりをしていくことができるのかというところが不安であるため、今年は宿根草を植えたいと考えている。プランターに花を植える場合は、毎年植え替えが必要で水やりも大変だが、宿根草を増やしていくと毎日の水やりをする必要もなくなり、毎年植え替える必要もないので、来年度以降は1%システムの補助金に頼らなくても続けていくことができると考えている。

【主な意見】

- ・水やりが一番大変ということだったので、宿根草を植える以外にも水やりが負担にならないような方法も検討しながら、ぜひ継続していただきたい。
- ・子ども会や老人クラブなどに、既に協力してもらっているということなので、地域全体を巻き込む動きをしてみてもいいと思う。
- ・花の植え方に高低差をつけたり、比較的水やりのいらぬ花も混ぜながら植えてバリエーションをつけるなど、歩く人や運転している人の視線を引くような工夫をしてみてもいいと思う。

【採択結果】

合計点 76.3 点 \geq 60.0 点 ⇒採択

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.2
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.3
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.7
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.5
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.0
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.5
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.3
合 計		76.3

● 11 : 大仏公園紫陽花まつり／石川町会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 町会として、どのような体制で祭りを運営しているのか教えていただきたい。

A : 祭りの運営は全て町会でやっており、昨年は1か月の祭り期間中、毎日役員が2人体制で巡回した。役員以外でも、畑からの帰りやお昼に、公園に寄って様子を見に来てくれる人がいるなど、町民の大仏公園あじさいまつりに対する思いが非常に強くなったと思う。

Q : 平成30年以降補助金を申請しないということだが、祭りを継続するための経費を集める方法について考えていることがあれば教えていただきたい。

A : 町会の予算にも限りがあるので、予算を削減できるところは削減して、将来的には町会の予算で、祭りを実施していきたいと考えている。

Q：町会で紫陽花祭りを定着させるために何か考えている内容等はあるか。

A：大仏公園の認知度を高めて多くの人に利用していただきたいという思いが、町会の中でも広がっており、去年は町会内にある菓子店で、紫陽花にちなんだ菓子を販売するなど町会内でもさまざまな反応があった。今後も町会で工夫をしながら継続していくことで、大仏公園の紫陽花祭りを定着させていきたい。

【主な意見】

- ・祭り期間中に町会から出店を出したり、店の出店料で収入を得たり、弘南鉄道の駅から公園に行くまでの道に作品を置くなど、さまざまな分野への派生や、収入源の確保が可能な事業だと思う。
- ・大仏公園は、春は桜、夏は紫陽花といった花のほかにも、三十三観音や、弘前城につながると言われる洞穴などがあるので、大仏公園のマップを作製したり、ホームページに写真を掲載するなどして、もっと宣伝していただきたい。
- ・事業の中身を充実させようとする費用がかかる。今後、自主財源で実施する際には、予算がないからできないというような悪循環にならないように工夫をしていただきたい。

【採択結果】

合計点 81.8 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.8
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.9
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.3
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.7
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.7
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.8
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.5
合計		81.8

● 7：第3回 世界一の桜並木道をノルディック・ウォーク／

青森県ノルディック・ウォーク連盟

【質疑応答（抜粋）】

Q：ゴールデンウィークに合わせ、開催日を5月2日に設定したことによって、観光客も多いと思うが、宿泊先の心配はないか。

A：連休の前半に開催日を設定することで、連休中よりも旅館やホテルが予約しやすいと考えている。昨年の開催日は桜が散ってしまっていたが、今年は桜の時期が早いということもあるので、桜の満開を期待している。

Q：団体としては今後、どのように事業展開していきたいと考えているのか。

A：今後も何度か1%システムの補助金を使って事業をおこない、軌道に乗せていきたい。ある程度一定の集客が見込めるようになったら、大会の運営を参加費だけでまかなえるような参加費に設定していきたいと考えている。

【主な意見】

- ・若い人から年配の人までたくさん参加しており、山が近く自然環境を楽しみながら健康づくりができ、市民の楽しみ方にうまく浸透させている事業だと思う。
- ・リレーマラソンのように、市民の健康を意識した結果、市外からの参加者も増えて参加費で事業をだいぶ賄えるようになってきた例があるので、弘前健幸マイレージなど社会的なつながりを意識しながら継続していただきたい。
- ・いずれは自主財源で事業を実施していきたいということなので、自主財源と参加費で事業費を賄えるような仕組みを検討していただきたい。

【採択結果】

合計点 66.9 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.6
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.6
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.5
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.9
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.9
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.9
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.5
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	5.7
合 計		66.9

- 15：乳井区域内放棄地の環境整備と美化活動／乳井町おこし協力会
【質疑応答（抜粋）】

Q：茶臼館は整備後どのように使われているか。また、これから団体としてどのように活動を進めていく予定か。

A：整備前は草刈りをする人もおらず放棄地だったため、荒れ放題だったが、整備後は動物もあまり来なくなり、荒らされなくなった。大きい工事は今年で大体終わるので、今後は芝や草刈りなどの維持管理を主にやっていきたいと思っている。また、井戸のある場所から神社へ降りる道を整備して1周できるようにしたいと考えている。

Q：隣の石川町会の大仏公園紫陽花祭りとなにか連携は考えているか。

A：石川の町会長とは、弘南鉄道を降りて、大仏公園から乳井の茶臼館までのコースを作ってつなげていきたいという話をしている。

【主な意見】

- ・作業を地域住民で行っていくことで、自ずと手伝っていく人が増え、コミュニケーションが取れるようになっていき、次の事業展開へと進んでいくと思う。
- ・初めは町会の役員だけで活動を始めたが、続けていくうちに地域の人に参加するようになったということで、事業自体がコミュニティ形成の場になっていると思う。
- ・整備をあまりしすぎないほうが自然に優しいので、バランスを考えながら、できるだけ経費のかからないように維持管理する工夫していただきたい。また、今後はソフト事業の提案があれば事業もバージョンアップしていくと思う。

【採択結果】

合計点 83.2 点 ≥ 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	9.1
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.6
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.0
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.3
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.3
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.2
合 計		83.2

● 21：第3回弘前城リレーマラソン／特定非営利活動法人 スポネット弘前

【質疑応答（抜粋）】

Q：今年から導入するチップの仕組みと費用について教えていただきたい。

A：マラソンの時は靴などに付けているが、リレーなのでタスキに付けて、タスキをつないでいけば自動的にコースを何周したかわかるようになる。経費的にもかなりかかるため、今まで参加料を1チーム1万円（10人を超えると1人ごとに1,000円増し）としていたが、今回からは1人1,500円に変更した。

Q：来年度以降の運営の仕方について、現段階で考えていることがあれば教えていただきたい。

A：今回はチップを導入することにしたため、質を落とさず、参加者に対して十分なサービスを提供するためにも、1%システムを活用することで、事業内容を充実させている。来年以降は、国などの助成金活用を検討し、外から弘前市に助成金が入ってくる流れを作りたいと考えている。

【主な意見】

- ・今年から新たに女性の部を創設したり、個人参加者を受け入れてチームを作るなど、さまざまな工夫をし、充実を図っている点が素晴らしいと思う。
- ・この事業がきっかけとなり、弘前公園ランニングクラブが発足するなど、他に与えた影響が大きいと思う。そういう意味でも、今後安定的に事業を行っていただきたいが、参加者が増えることによって、事故やトラブルが起りやすくなると思うため、事故なく円滑に事業を進めることを常に意識することが必要だと思う。

【採択結果】

合計点91.7点 ≥60.0点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員13名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	9.2
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	9.4
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.5
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	9.4
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	9.4
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	9.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	9.2
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	9.1
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	9.5
合計		91.7

● 22：過疎地域スポーツ推進事業「スポーツゲンキッズ教室」／

特定非営利活動法人 スポネット弘前

【質疑応答（抜粋）】

Q：昨年度、福祉バスの利用について検討したいという話があったが、その後進展はあるか。

A：福祉関係者と検討したが、福祉施設で持っているバスに子どもたちを乗せた時に、万が一事故があった場合どうするかなど、保険の問題がネックになるということだった。他地域の事例などを調べたうえで、再度検討していきたいと思っている。

Q：事業を実施していくうえで、小学校や大学、保護者の協力体制はどのようになっているか教えていただきたい。

A：大学からは、過疎地域の学校支援をテーマに研究している学生たちに参加してもらっているが、ゼミのテーマが変わった場合、参加してくれるか不安があるため、教育学部にも声掛けをしている。今年は、地域や保護者にも協力してもらおう流れを作るため、放課後の子どもたちを地域でどのように支えていくかをテーマにし、話し合いの場を作りたいと思う。

Q：特に事業の対象となっている西地区では少子化が進んでいる中、子どもたちがスポーツをする環境を協働で作っていかねばならないと考えるが、このことについて団体の考えを教えていただきたい。

A：今は西地区で事業を実施しているが、少子化から、子どもたちが自由にスポーツができない状況は、今後、弘前の中心部でも起こりうると考えている。今そのような状況にある地域で解決できるモデルを作っていくことは、弘前全体でも大事なことだと思う。行政・NPO・市民がみんなで考えて、子どもたちがスポーツなり文化なり、好きなことができ

る環境を残していくためにも頑張っていきたい。

【主な意見】

- ・大学には、ボランティアのサークルや部活が数多くあり、小学校で一緒にスポーツをするような活動などもあるので、ゼミだけでなく、サークルや部活にアプローチしていき、大学が過疎地域の子どもたちと一緒に活動する流れができればいいと思う。
- ・共働きの家庭が増えたことによって、子どもを学ばせるためよりも、遊ばせることには保護者が動きにくいという状況の中、このような活動は大事にしなければならないと思う。
- ・保護者にとっても、自分の地域や子どものことなので、負担にならない程度に保護者を事業に巻き込みながら、役割を担ってもらえるような仕組みにつなげていっていただきたい。

【採択結果】

合計点 86.6 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	9.4
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.2
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.5
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.9
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	9.1
合計		86.6

● 20. ひろさきアフタースクール

～「地域の力を取り込んだ放課後づくり」プロジェクト～／あんよ・せらびー共育研究会

【質疑応答（抜粋）】

Q：休みの日にさまざまなところに出かけて学ぶ「遠足プログラム」では参加費を徴収することになっているが、月1回開催する「英語学習」でも参加費を徴収することはできるか。

A：団体が自立して事業を継続していくためには、有料にすることは必要だと考えている。

まだ事業を始めたばかりなので、有料化が早くできるように、参加してくれる子どもたちの保護者にアンケートを取るなど調査をしながら進めていきたい。

Q：放課後の安全対策を理念に「アフタースクール」という事業を展開しているのに対して、月1回の活動では少ないように感じるが、団体としてはどのように考えているか。

A：協力してくれる小学校の受け入れ態勢が整っているが、まだ毎週事業を実施できるほどの人材が育っていない。小学校の協力を得て、事業を町会の総会などでPRできる予定なので、地域で協力してくれる人が少しでも出てきてくれれば、回数を増やしていきたい。

【主な意見】

- ・1年目に行った「市民先生」養成講座を今年もう一度行うのは、預かった子どもたちを傷つけるようなことが起きないように、預かる側の共通認識を持ってもらうためだと思う。
- ・活動の拠点を岩木から石川に移す理由が、団体の人材不足ということであれば、事業の目的からズレが生じると思う。

【採択結果】

合計点 61.5 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.2
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.3
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.6
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	5.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.2
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.6
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	5.7
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	5.7
合計		61.5

● 19：弘前市民の森で元気になろう／弘前市民の森の会

【質疑応答（抜粋）】

Q：この事業に参加して、体調が改善されたというような事例があれば教えていただきたい。

A：参加したことで、体調が良くなり、この事業にボランティアとして参加したいという事例があった。また、この事業に参加することで、一人で運動しているときと違い、さまざまな人と関わって話ができるようになり、参加者の生きがいにもつながっている事例もあった。

Q：継続していく中で、参加者も徐々に増えているようだが、運営していくうえでスタッフに負担になるようなことはないか。

A：ボランティアも健康法と捉え、実施している。昨年度に実施したゲートキーパーの講演会の際にアンケートを取ったが、市民の森での活動にも参加してみたいという回答が多かった。今年から、5月・7月と早めの時期に講演会を行い、講演会への参加者にも市民の森に案内できるように周知していきたい。

Q：事業を継続していく中で、新しい参加者が増えているなど、参加者の変化は見られるか。

A：広報ひろさきの記事を見て、初めて参加する人もあり、一度参加して、良ければ継続して参加する人もいる。

【主な意見】

- ・市民の森を活用して元気になろうということを大学生や市民にどんどん広めており、また、実施する講座を増やすなど、事業を発展させていると思う。
- ・1%システムの活用を平成28年度まで希望しているが、1%システム以外にこの活動を支援する仕組みができていなければ、自立して活動を続けることは難しいため、1%システムで支援し続ける方法もあると思う。

【採択結果】

合計点 75.2 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.4
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.4
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.2
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.7
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.4
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.2
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.8
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.7
合 計		75.2

- 9 : 高齢者が末永く健康で豊かな生活を送れる街づくりを目指して
～シニアサロンくれたけ倶楽部に全員集合！～/特定非営利活動法人 シニアネット弘前

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 事業の中で、フラワーデザイン教室などの各種サークル活動を行っているが、民間のカルチャー教室との違いを教えてください。

A : 通常の教室だと、1回数千円の授業料がかかるのに対し、参加費のみにしている。

Q : チラシはどこか公共施設等に配布する予定はあるか。

A : 以前新聞の折込みチラシを旧市内に入れたが、まったく反応が無かったので、今回は直接各家の郵便受けに投入するポスティングというかたちを取った。

Q : 要介護や要支援の認定者を減らすための手段として、各種教室を開催することを選んだ理由をお知らせいただきたい。

A : 各種教室を開催するのは、あくまでも生きがいづくりが目的である。また、家から出て人と会って交流し、社会参加することが介護予防につながると考えている。

【主な意見】

- ・参加者の負担が少なく、誰でも気軽に利用できる介護予防のための場を創出する目的は理解するが、本事業は、団体の既存事業をそのまま継続するものであり、他のカルチャースクールとの違いが少ないことから、利用者のニーズに合った形の事業展開を検討していただきたい。

【採択結果】

合計点 47.0 点 < 60.0 点 ⇒ 不採択

※審査委員 12 名で審査採点 (清藤委員は審査から外れる)

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	4.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	5.3
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	5.7
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	4.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	5.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	5.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	4.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	4.7
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	3.8
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	3.0
合 計		47.0

● 3 : ラベンダーロード再生事業／相馬地区小・中学校 PTA 連絡協議会

※プレゼンテーション無し。

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 一度整備が行き届かなくなった場所を復活させようとする活動として良いと思うが、維持管理をどのように考えているか。

A : 校外事業の一環として行いながら、地域の人も巻き込み、管理していきたいと聞いている。

【主な意見】

- ・小中学生がラベンダーロードの管理に関わっていくことで、親や仲間など、地域の人たちと一緒に巻き込んで関わっていくことができると思う。
- ・植えている花がラベンダーで、去年の事業で防草ネットも張り替えているため、草取りや水やりの手間があまりかからないので、管理上問題ないと思う。

【採択結果】

合計点 71.3 点 \geq 60.0 点 ⇒採択 (申請額どおり)

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.8
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.7
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.5
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.8
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.2
合 計		71.3

3月21日審査結果 (22事業のうち10事業)

採択とする事業 9事業
不採択とする事業 1事業

平成26年度第6回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（3日目）

日 時：平成27年3月22日（日）

午前9時～午後2時50分

場 所：市役所新館2階大会議室

出席者：審査委員 檜楨委員長、鴻野委員、齋藤（秀）委員、清藤委員、齋藤（き）委員
西川委員、高森委員、木田（直）委員、木田（多）委員、工藤委員、
宮川委員、長内委員、小林委員
※2名欠席（島委員、小友委員）
市民協働政策課 大澤課長、三上補佐、白戸主幹、櫻庭係長、對馬主査、阿保主事
斎藤主事、成田主事

1 公開プレゼンテーション・審査会 3月20日、21日に引き続き審査

《審査内容》

- 4：環境教育用だんぶり池下敷き作成活用事業／ひろさき環境パートナーシップ21
※公開プレゼンテーション無し。

【質疑応答（抜粋）】

特になし。

【主な意見】

- ・昆虫や動物に触ることができなくなるような年齢に達する前に、地域に棲んでいる生物のことを学ぶことは非常に意義があると思う。
- ・インターネットでも情報を発信することはできるが、情報が分流されやすかったり、埋もれて探しにくくなったりすることもある。アナログな下敷きの場合、作製するとき経費はかかるが、その分の重みや役割もあるし、何かあった時にすぐ手に取ることができるので、このツールにこだわりを持ってもいいと思う。
- ・配付した下敷きを活用した展望が見えないため、今後どのように発展させていくのか検討していただきたい。

【採択結果】

合計点 76.8点 \geq 60.0点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12名で審査採点（齋藤（秀）委員は審査から外れる）

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.3
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.0
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.3
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.7
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.8
合計		76.8

● 6：五代町会夏祭り&ほたる観賞会／五代町会

※公開プレゼンテーション無し。

【質疑応答（抜粋）】

Q：一般的に町会が衰退してきている中、町会で動き出すことに対する関心は、このほたる観賞会にはどの程度表れているか。

A：将来的な展望ということであると、ほたるを「見る場所」を整備してはどうかという話がでてきていると聞いている。整備する場所は地域内の個人所有の土地だが、ほたるのために提供してもらえる予定で、自分たちの地域を外に見せていくことに対して、地域全体が意識を高めているとのことだった。

【主な意見】

- ・ほたるが棲める環境を作ろうという意識が町会内で広がってきていることから、ほたるが棲んでいる場所だけでなく、そのさらに上流の清掃にまで目が向けられるようになったのだと思う。
- ・この事業には、ほたるを通じて町会内外の子どもたちから高齢者までがつながる面白みがあるように感じる。
- ・ほたるの観賞会と併せて行っている夏祭りは、町会だけでなくPTAも一緒に行っているため、子どもが参加しやすく、非常に良い取り組み方だと思う。

【採択結果】

合計点 80.2 点 \geq 60.0 点 ⇒採択

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.8
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.3
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.8
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.6
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.0
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.8
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.3
合計		80.2

● 1. 市民健康増進事業「第4回 津軽岩木スカイラインを歩いてみよう会」／弘前歩こう会
【質疑応答(抜粋)】

Q：開催日を9月第1週目の日曜日に固定している理由を教えてください。

A：春か秋に事業を実施すれば、一番効果的に岩木山スカイラインを全国にPRできると思うが、春はまだ雪が積もっており、参加者が歩くのに危険が伴う。8月はまだ暑いし、9月第2週目からスカイラインのゴールデンシーズンに入り、半日でも全コース閉鎖することはスカイラインの営業に大変な影響があるということで、9月第1週目に決めている。

Q：1%システムを活用したノルディック・ウォークを行う事業もあるが、そのような団体と連携していくことは可能か。

A：弘前歩こう会の会員がノルディック・ウォークのイベント時にサポートするなど、すでに連携している。

【主な意見】

- ・岩木山をはじめ弘前では、スポーツを通じて県外から来てもらえる機会が増えており、たくさんのプログラムの中から自分が行きたい時に弘前に行ってみよう、という動機づけになる事業のうちの一つだと思う。
- ・健康増進を目的として始まり、弘前健幸マイレージ制度など、さまざまなことを取り込みながら発展しているように思う。

【採択結果】

合計点 82.5 点 \geq 60.0 点 ⇒採択(申請額どおり)

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.7
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.7
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.6
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.6
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.2
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.3
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.3
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.2
合計		82.5

● 14 : 弘前さくらコンサート/Rainbow Muse Hirosaki

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 桜が咲く 4 月下旬頃に弘前周辺で開かれる音楽コンサートの状況を教えていただきたい。

A : 弘前周辺で、大なり小なりの音楽会が開催されていると思う。今回、桜の時期に市民会館でコンサートを開催するのは、さくらまつりに来た観光客や地元の人にも素敵なことをやっているな、とコンサートを聴いてもらえれば良いと考えたためである。

Q : 来年度以降の展望について教えていただきたい。

A : ピアノに限らず、音楽は楽しいし心を豊かにしてくれるものなので、多くの人に音楽に触れて、潤いのある人生を送ってもらいたいし、コンサートをきっかけに音楽の楽しさを知って楽器に触れてもらいたいので、このような活動を続けていきたい。

Q : 出演する子どもたちを、市内のピアノを習っている子どもたちに広げていくことはできるか。

A : 市民会館を使ってみんなで楽しむことができ、あまり使われていない市民会館のピアノをもっと市民が使うことができるような企画をしていきたいと思っている。さまざまなところに交渉して、今後の発展性を考えながら実施していきたい。

【主な意見】

- ・今回の事業は、今後どんどん出演する人を増やしていくために、地域でネットワークを作るきっかけになるように感じた。
- ・東京から著名な演奏家を招いて出演してもらっただけでなく、地元からの出演者も多数あ

るのが良いと思う。

- ・現在音楽に触れている子どもたちにも、きちんとしたものを見せていかなければモチベーションが下がってしまうので、質の高い音楽をどんどん供給することは大事なことだと思う。
- ・今後の活動の中で、多くの人が楽器に触れる機会や、音楽に触れる機会を身近に作る方法などを意識していただきたい。

【採択結果】

合計点 71.8 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点（鴻野委員は審査から外れる）

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.7
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.0
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.8
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.7
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.5
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.5
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.3
合計		71.8

● 18：津軽の囃子文化育成事業／津軽笛地域づくり実行委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q：例えば、ねぶた囃子だと行進、休み、戻りと種類があるが、実際にねぶた祭りを見てみると、囃子が変わらない団体もある。講習会などで、このような場面によって囃子が変わる、弘前ねぶたの良さを広げるようなことはできるか。

A：ねぶたは観光資源でもあるが、地元住民の祭りでもあるので、休みや戻りといった囃子と、どこまで来たらそのお囃子が変わるのかといった部分も含めて継承していかなければ、文化がおかしくなってしまうと思うので、気を付けて教えていきたい。

Q：昨年は県外から20名の参加があったが、それ以前の県外からの参加状況はどうであったか教えていただきたい。

A：一昨年は5～6名の県外からの参加があった。昨年はそれと比べると増えている。地域の人が笛を習ったり聴いたりする場を作るのはもちろんだが、地域外の人にも、お囃子

文化について知ってもらいたいため、県外の人に対するPR方法を考えながら、県外からの参加者が増えるように広報していきたい。

【主な意見】

- ・今まで弘前にあった笛の文化をしっかりと根付かせていくために、次世代を育てていこうという取組みで、評価できる。
- ・事業のメインとなる部分は笛のワークショップやコンサートだが、同時に太鼓についても一緒に考えていきたいという点が、昨年よりもバージョンアップしていると思う。
- ・企画内容に、発展性が見えにくいと感じた。

【採択結果】

合計点 81.5 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.3
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.8
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.0
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.3
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.2
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.8
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.3
合計		81.5

● 2：若葉町会納涼祭り／若葉町会

※プレゼンテーション無し。

【質疑応答（抜粋）】

Q：学校が、子どもたちについての個人情報を出さないようになっているが、町会として子どもたちを守っていくためにも、子ども会という組織に注目していると思うが、これまでどの程度子どもたちの情報を集めているか。

A：これから名簿を作っていこうと考えているところで、今年の夏祭りに参加した子どもや、その親の同意を得て名簿を作っていきたいということで動き始めているところだと聞いている。

【主な意見】

- ・子どもたちや高齢者の方たちとの結びつきといった、コミュニティの強化のために祭りを手段としている町会が多いので、ほかのモデルとなるような事業を自分たちなりに工夫して新しい形を作り上げ、また、その結果を広く伝えていっていただきたい。
- ・子ども会は大切な組織である一方、作りようがないのが今の社会なので、子ども会を作りたいという話が出ていることはすごいことだと思う。また、納涼祭りのほかにも、夏休みのラジオ体操の時にも子どもたちが集まってくるので、その時に子どもたちの情報を掌握したら良いと思う。
- ・子どもたちだけでなく、親子で参加する仕組みを作り、「母の会」が生まれるようなつながりができて欲しいと思う。

【採択結果】

合計点 77.5 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.9
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.0
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.3
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.7
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.5
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.7
合計		77.5

● 10：環境美化事業槌子町会環境美花「花いっぱい運動」／槌子町会

※プレゼンテーション無し。

【質疑応答（抜粋）】

Q：花を植えた後の、水やりなどの花の管理はどのように行っているのか。

A：事業を継続して行ってきたことによって、特に役割分担をしなくても参加者と町会役員が意思疎通できるようになっており、一部の人に負担をかけないように、当日花を植える作業に参加できない人は前日までの準備などを手伝ってくれていると聞いている。

【主な意見】

- ・毎年少しずつ変化を付けながら継続してきており、しかもただ花を植えるだけでなく、その背景で、人材の育成をテーマとしていることが素晴らしいと思う。
- ・元々まとまりが強く、ねふた愛好会など活発に行っている町会だが、さらに子ども会や若い世代が町会活動に参加していけるような活動に発展しているところを非常に評価したい。
- ・花を通してさまざまな世代がつながり、コミュニケーションを取れているようなので、他地域のモデル的な事業になって欲しい。

【採択結果】

合計点 85.1 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.0
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	9.1
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.5
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.7
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	9.1
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.3
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.5
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.5
合計		85.1

● 8 : 第2回「住み慣れた地域で最期まで」を支えあう街づくり講演会

私の防災活動、私が街にできること／ひろさきナラティブ.net

【質疑応答（抜粋）】

Q : 1年目は「医療・介護」をテーマに、在宅医療に係る講演会を行っているが、継続事業として、テーマを「すまいとすまい方」にし、防災・減災活動とした講演会と意見交換会を行う理由をお知らせいただきたい。

A : 1年目の講演会で、専門職の人ばかりが参加するのではないかと予想していたが、アンケートを取ったところ、専門職以外の人たちも興味を持って参加していたことがわかり、地域包括ケアシステムの5つの要素の中でも、専門職の人と地域の人たちが同じ目線で話し合うことができると思われる「すまいとすまい方」を今回のテーマとした。我々と同

じような取り組みをしている方から、防災をはじめとした地域での取り組みをテーマに講演をしてもらえると良いのではないかと考えている。

Q：次年度以降事業を継続していくうえで、どのようなことを目指しているのか。

A：ただ講演会を開催することが目的ではなく、東京で行われている「暮らしの保健室」（地域に住んでいる方々の暮らしや健康、医療、介護等の相談を受ける場所）のような場所を作ることを目指して活動している。

Q：昨年度に講演会を実施した時、市外からの参加者ともつながりができたと思ったが、今回の事業でもさまざまな地域からの参加が期待できるか。

A：ケアマネージャーなど専門職の人にとっては有名な方を講師として招くので、専門職から情報を発信することで広く参集することができると思う。ただ、今回は市民の方、特に民生委員に多く参加してもらって、つながりを持ちたいと考えているので、民生委員の方たちにも情報を発信していきたい。

【主な意見】

- ・介護事業者のヘルパーは介護が必要な人を数多く担当しており、いざ何か起きた時にみんなを守りきれない現状がある中、みんなを助けるためには地域の人が必要で、有事の際にはどのような心構えや手段が必要であるかを伝えるための講演会だと思う。
- ・今後、町会との連携などができるようになっていけば、事業として発展し、必要性が増すと思うので、民生委員だけでなく町会関係者にも働きかけていけばよいと思う。
- ・フォーラムや意見交換会だけで終わらず、専門職と一般の参加者とのネットワークが作れるような仕組みについても今後考えていただきたい。

【採択結果】

合計点 70.3 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.2
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.8
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.9
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.6
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.1
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.2
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.8
合 計		70.3

3月22日審査結果 (22事業のうち8事業)

採択とする事業 8事業
不採択とする事業 0事業

1次募集事業の審査結果 (22事業) 3月20日～22日審査合計

採択とする事業 21事業
不採択とする事業 1事業